



獲得した事。オノに、教授会に對する攻撃的  
的斗争による評議会大衆団交アツセン確約の  
獲得を通じて評議会大衆団交にむけての水路  
を主体的にきりひらさうる展望をからとつた  
こと。以上の三点に以下の斗争の意図は求めら  
れる。だがそこには以下の如き限界がほらま  
れていた。オノに動員数の少なさにもみられ  
るように、文學部が攻撃的斗争を担うる強  
力な戦斗体制を構築しえていないこと。オノ  
に情報のキツクおける不充分性が低下して  
いることである。従つて我々は教授会の散会  
を許してしまつたのであり、交渉対象を学生  
委員会に限定せざるを得なかつたのである。  
学友諸君、九月の斗争の取組と限界を総括  
しぬき、ただちに教育学部教授会との大衆団  
交実現にむけて戦斗体制を訂築せよ。オノに  
の獲得目標は明確に以下の二点に定められ  
ばならない。オノにオノ以降、教授会が  
紛争推進に力をかき、許容したことを自己批  
判せしめ、調査に計上、オノに土地確保決定  
に對する、又M中委設置に對する反対意志の  
表明をせまること、オノに評議会との大衆団  
交確約を再度アツセンせしめることである。  
この獲得目標を鮮明にかかげ、更に追撃戦を  
展開しない、かぎり、あの苦しい斗争の成果は  
また一片の告系で水に流されてしまふかもし  
れない。バリケードの中であつたえられた  
務転阻上むけての強固な意志を基に、あ  
らゆる契機をとらえ評議会大衆団交実現にむ  
けて斗争をおし進めよう。

獲得金支給要求の交渉に對する一部諸君の  
妨害に抗議する  
9日に予定されていた大学当局と文自斗の  
獲得金支給要求の交渉は一部前執行部系諸君  
の妨害によつて流れてしまつた。その理由が  
「ボス交渉だから」といふのだ。だが大学  
当局との交渉におけるさまざまな問題は再三  
クラス代表者会議、集会で確認されてあり、  
断じて「ボス交渉」などではありえない。以後  
一切妨害によつて大学当局の獲得金打ち切り  
策動に身をかすようなまねはしない、ことを強  
く要求する。

日大の斗争学友との連帯を！  
日大芸術学部斗争委員より、文自斗に對し、  
スト貫徹一二の日集会への結果がよびかけ  
られてゐる。我々はこの集会に結果し、真の  
斗争連帯と團結を勝ちとらうてはなはいか？  
日大戦線異常あり。スト貫徹12日集會  
日時 10月13日 午後2時  
場所 日本大芸術学部(画武線江古田側車庫  
前) 映画、三里場の夏、日大斗争の  
プロパガンダ、三里場の夏、日大斗争の  
日大斗争総括、展望、記録、  
全国学生戦線、労働戦線、ネルデー、  
スカッシュ、  
江古田大デモンストレーション

江古田大デモンストレーション

「招請状」  
権力支配の彼岸に――いやまさにはその真只中に  
いざなふ自己革命を凝視する世界は、卑わ  
規定に於て、単語としての「幻想」として  
末席に位置され続けらるる。  
しかし、もしこの現実性とやらの免罪符が  
ひとつの虚視的幻影としたら、一体、我々に  
とつて現実としての世界は、斗かいたアログ  
ラムのなごどいかに構築、構成されるべきで  
あろうか。あらゆる発想の必然性は、我々の  
残存、埋没し続ける觀念の領域の完璧な軀件  
以外にその方向性を模索する事はできないだ  
ろう。

権力支配の志向は、「最後の影絵」として  
の自己否滅の極限のなかからへ生へへの接近  
をとうしてのみ、不滅の運動を形成すること  
がとらざるべからう。  
三里場の夏。日大の夏。反戦の夏。  
我々は何か知らずか、我々は自らの獲  
得と喪失の弁証法の真只中にいた。地中海の  
「青春」は、我々にとつて解放民からのナガメ  
に過ぎなかつた。  
かつて幻影のなかに輝き、ひらめいた獲  
いま一二の日のよづれた真黒の手によつて支  
えられてゐるかのようだ。我々は誰によつて支  
てもない。自らの手になる旗を創設したのだ。  
旗をその象徴とした歴史の欠落を我々は今、  
歩み始めようとしてゐる。  
幻影を死滅の領へ――現実を獲得の領域へと  
い。今、我々は本當の事を云わなくてはいいけ  
ない。そして何よりも今、我々は本當に行動  
をたくてはならない。

理想秩序に對する全般的な挑戦とその解体へ  
の斗争を！  
全国の斗争労働者、農民、学友諸君、  
権力のアミの目のなかでズタ／＼に切斷され  
つつも、その拠点での深化の斗争の打から  
形式的連帯でなく、その類的運動の結合をめ  
ざす全ての斗争諸君、我々には何の組織もな  
かつた。何らの基盤もなかつた。あつたのは  
唯、抑圧と弾圧と搾取の制度だけである。し  
かも知らず、の内に「死」を宿す学友の暗  
い影のなかから、我々は隆起したのだ。陰湿  
な支配の強迫を、微笑と交換した自己自身へ  
の徹底的な拒否を通じて、今、我々は我々の  
戦線を結成してゐる。  
ブルジョアの大学支配の決別を、今、我々  
は長期戦力完全占拠の打から、進めようとし  
てゐる。  
全国の斗争全ての労働者、農民、学友諸君  
心から熱烈な團結と連帯の意をこめて、我々  
はこの招請状を送る。

日本大学全学共闘会議  
芸術学部斗争委員会